

令和7年漁期の底びき網漁業の漁模様

令和7年漁期（令和7年9月～令和8年6月）の本県沖の底びき網漁業（沖底・小底）の漁模様について報告します。漁獲量の集計は県水産試験場漁獲管理情報処理システムで行い、銚子水揚げ分も含めて集計しました。

1. 漁獲量及び水揚げ金額

令和7年漁期の漁獲量は3,944トン、水揚げ金額は22.1億円となり、漁獲量、水揚げ金額ともに前年漁期と比べて大きく増加しました（図1）。

震災以前の漁獲量は2,000トン前後、水揚げ金額は7～10億円で推移していましたが、震災後は2,500～4,000トン、8～14億円で推移していましたが、令和7年漁期は単価の高いスルメイカが豊漁となったことで、水揚げ金額が過去最高となりました。

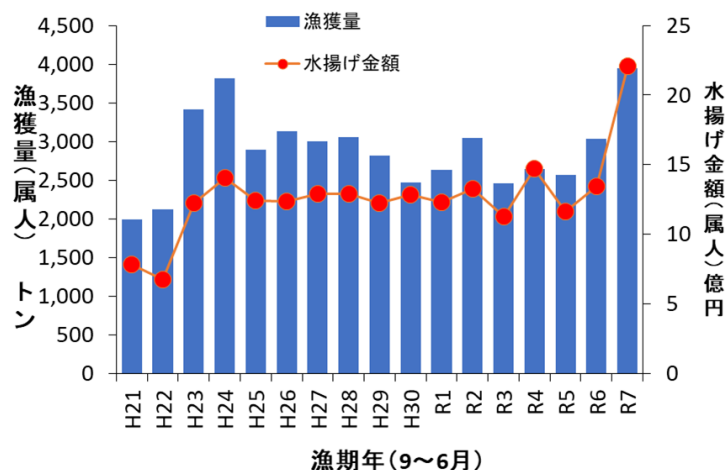


図1 底びき網漁業の漁期別漁獲量と水揚げ金額の推移

2. 漁獲量及び水揚げ金額で主体となった魚種

令和7年漁期に漁獲量が多かった上位5種は、1位サバ688トン（前年漁期773トン、1位）、2位メヒカリ669トン（同455トン、2位）、3位スルメイカ650トン（同72トン、6位）、4位ヤリイカ617トン（同359トン、3位）、5位アンコウ104トン（同59トン、8位）でした（図2左）。

水揚げ金額の上位5種はヤリイカ、スルメイカ、メヒカリ、サバ、ヒラメの順となり、前年漁期に比べてヒラメは減少しましたが、その他の種では増加しました。水揚げ平均単価は、ヤリイカ998円（前年漁期997円）、スルメイカ806円（同696円）、メヒカリ587円（同496円）、サバ140円（同108円）、ヒラメ799円（同790円）でした。平成23年漁期以降は、平成27年漁期、令和5年漁期を除いてヤリイカが水揚げ金額1位であり、今漁期もヤリイカが1位となりました（図2右）。

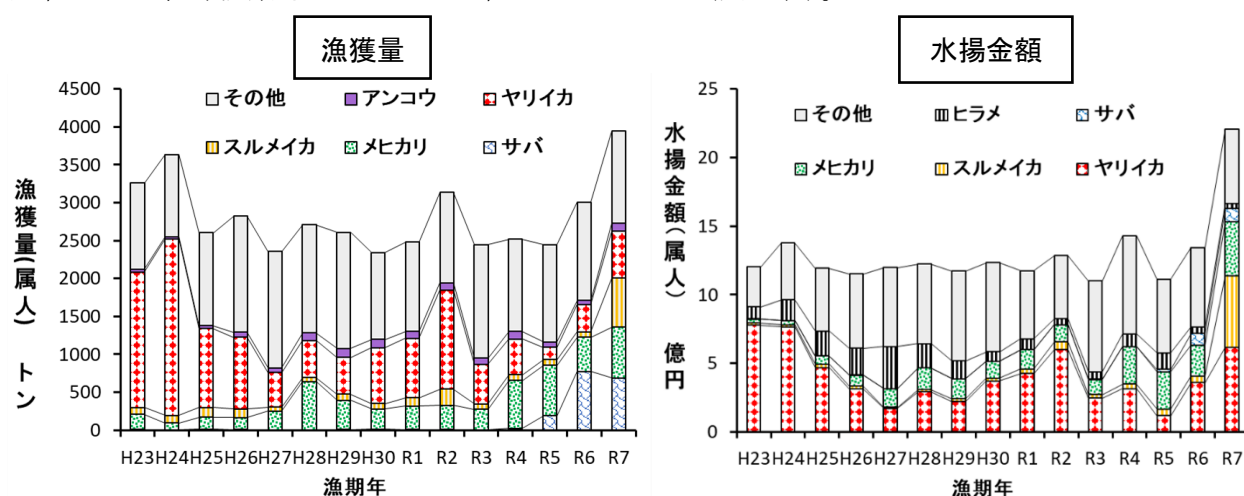


図2 漁獲量及び水揚げ金額で主体となった魚種の推移

（定着性資源部 西 琉太）

【次回予告】R8.7.24 発行の水産の窓は、「春シラス漁の漁況結果と秋シラスの予測」を予定しています。